2Np－3

編入学生にみる目的達成プロセス

○高橋桂子　　（経済政策研）

目的：短大入学時にはその多くが一度は志すといわれる4年生大学への編入試験。だが、学生生活を送る中で立ち消えになることも多い。実際に短大から学部に編入した学生は、なぜ編入試験を目指し、どのようにして緊張感を維持してきたのか。編入学生を対象にその実態を明らかにする。

方法：「家庭経営」受講学生（総数50名）の中には短大からの編入学生が5名いる。彼女たちに、学部編入試験を意識した時期、受験の目的・動機や受験期の精神的支援等についてアンケート調査とヒアリング調査を実施した。調査時期は1997年12月である。

結果：主な結果は以下の通りである。

①編入受験動機が明確である。つまり、高校二級の教員免許取得である。

②友達が編入試験を断念していく中で、当初の目的を達成できた要因には就職活動をしないで編入試験1本に絞ったこと、家族からの精神的な支援があったことや自分に負けたくないという意思が強かったこと、などがあげられる。

③現在の自分に対する評価はプラスに転じている。

「家庭経営」の講義では、概して編入学生の方が受講態度が真剣かつ反応がいい。ある時期集中して自分自身を深く見つめたり、自身の頭で考えたという経験の有無がその違いに影響を与えているように思われる。